

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                     |            |  |
|---------|---------------------|------------|--|
| 事業所番号   | 0590200085          |            |  |
| 法人名     | 株式会社 芳栄             |            |  |
| 事業所名    | グループホーム 和み (よねしろ棟)  |            |  |
| 所在地     | 秋田県能代市二ツ井町飛根字高清水265 |            |  |
| 自己評価作成日 | 平成27年12月15日         | 評価結果市町村受理日 |  |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                   |  |  |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団 |  |  |
| 所在地   | 秋田市御所野下堤五丁目1番地の1  |  |  |
| 訪問調査日 | 平成28年1月26日        |  |  |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園地帯の立地を活かし四季を身近に感じて生活できる様に敷地内で畑作りや花壇作りそして周辺の散歩を行っております。また、個々の能力に合わせて居室の掃除や食事の下ごしらえ、リネン交換等無理の無い程度に出来る範囲の事をして頂き少しでも家庭生活を取り入れられるようなケアを行っています。ご家族様との信頼関係を育む事については、毎月始めに近況報告と毎週木曜日に行っているレクリエーションの模様、そして日常生活の写真にコメントを載せた「和みだより」を送付しています。ご家族様に少しでも入居者様の普段の生活ぶりを実感して頂きたく開設以来の「和みだより」の発刊を続けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して8年、当初から「職員みんなで作り上げていこう」という社長の考えの下、職員みんなで良くしていこうと協力し、職員の意見もきちんと反映され、社長も協力的に取り組んでいる施設である。入居者一人ひとりを大事にしており、その人の立場に合った援助を考えている。また、入居してもらい、家族のように接させてもらっているという思いから、最後まで一緒に過ごし、看取りまで支援することを大切にしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項 目 |  | 取 り 組 み の 成 果<br>↓該当するものに○印   | 項 目 |   | 取 り 組 み の 成 果<br>↓該当するものに○印   |
|-----|--|---|-----|---|---|
| 54  | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | ○ 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんど掴んでいない | 61  | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○ 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 55  | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | ○ 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 62  | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○ 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 56  | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 63  | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 57  | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)     | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 64  | 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○ 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 58  | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65  | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 59  | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66  | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○ 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 60  | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |     |   |   |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|-------------------|-----|--|--|---|-------------------|
|                   |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I.理念に基づく運営</b> |     |  |  |   |                   |
| 1                 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                       | いつでも目につく様に玄関、ホール、事務所に貼り黙読している。職員会議の場でも全員で再確認している。                        | 「和やかな心、和やかな顔、和やかな言葉、和やかな振舞い」という理念を常に頭に置き、利用者と接している。また、職員の目に止まり黙読出来るように、大きく手書きした理念も提示している。   |                   |
| 2                 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                           | 地域の祭の際、敷地内で屋台等をして、地域の方々や、家族の方を招待し、飲食をしている。また、地域の運動会や芸達者の会にも毎年参加させて頂いている。 | 地域のお祭りをホームの駐車場にて行い、参加している。来訪者も多く、地域の方が自分で作成した絵画を月1回、5点ずつ持参し、飾ってくれたり、庭で採れたお花を飾ってくれたりしている。また、年1回、地方にいる親戚同士の集まりを施設で行っている家族もいる。               |                   |
| 3                 |     | ○事業所の力を活かした地域とのつながり<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している                   | 毎月作成している「和みだより」を地域の皆様に見て頂きたいと考えている。                                      |   |                   |
| 4                 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている      | 運営推進会議で話し合った内容は月1回の職員会議で発表され、地域の方や御家族の声としてサービスに反映されるように話しあっている。          | 「誕生会のメニュー希望を取ってみては?」「前のケアプランと新しいケアプランの違いが判らないので、変わった所を赤ペンで引いてみては?」等意見が活発に出されており、出来る範囲できちんと工夫し実践している。それがサービスの質の向上に繋がっており、本来の運営推進会議の在り方である。 |                   |
| 5                 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる                | 運営推進会議には市の福祉課職員と地域包括支援センター職員に参加して頂いている。                                  | 地域包括支援センターより紹介された利用者のその後の状況を報告したり、特養を申し込みたい時に情報提供し合っている。わからない事は電話をし、アドバイスを頂いている。  |                   |
| 6                 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 月に一度のカンファレンスで職員全体で身体拘束のマニュアルについて確認話し合った。                                 | 過去に1人、車椅子に安全ベルトの利用者がいたが、医師に相談し、アドバイスをもらいながら、外すことに成功した成功事例があり、全職員が身体拘束をしないケアを理解し取り組んでいる。現在は身体拘束の事例はない。                                     |                   |

| 自己 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
|    |     |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている         | 虐待に関して、毎月の職員会議や日々の申し送り等で話し合い、正しく理解する時間を設けている。事業所内で虐待が行われる事が無いよう努めている。                             |  |                   |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 契約は主に管理者が説明を行っているが、重要事項説明書に沿って利用者が家族と一つ一つ確認しながら疑問が残らないように努力している。                                  |  |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                      | 玄関に意見箱を設置している。また月1回の支払い面会の際に御家族に要望等を聞く機会を設けている。電話やメールでも積極的に交流を図り意見抽出し、運営に反映させる為会議などで話し合いの場を設けている。 |  |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                  | 毎月1回職員会議を行い、各棟ごとに分かれて話し合い、職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。  | 部屋の暖房を消さないで欲しいという本人からの訴えをそのまま受け入れるのは室温・湿度等健康面から考えても理想的では無いが、否定せず、意向に沿うようにし本人を安心させ、解決している。利用者は気軽に事務所に来て、要望や意見を話している。                        |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                   | 職員会議や申し送り等で職員の意見を聞く機会を設けている。  | 普段から「こうしたらどう？」と職員間で話しており、入浴時脱衣場に柵があると介護しやすいという意見がでると、職員会議にて発言し、準備している。最近ではトイレに手すりを付けた方が安全との意見が出され、改修予定である。職員は意見を出しやすい環境になっており、きちんと反映されている。 |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている   | 職員会議や申し送り等で話し合う機会があり、意見や要望を聞く機会を設けている。  |  |                   |

| 自己                           | 外部 | 項目  | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|------------------------------|----|---|--|------|-------------------|
|                              |    |   | 実践状況   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13                           |    | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている            | 研修には積極的に参加している。職場内では今不安に思っている事を代表者に話し、会議等で研修、話し合っている。外部の研修には研修報告書を記入し全職員が把握出来るようにしている。 |      |                   |
| 14                           |    | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ほっとネットニツ井に入っており研修等に積極的に参加しネットワーク作りを行っている。勉強会や相互の見学会も行った。                               |      |                   |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |    |   |  |      |                   |
| 15                           |    | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている                  | 本人の要望には常に耳を傾け本人が望んでいる事や、欲しい物は担当者が購入したり時には買い物に出かけたり出来る限り耳を傾けている。                        |      |                   |
| 16                           |    | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                             | 毎月、月初めに近況報告で家族の方に入居者様の様子をお知らせしたり、新しく入居されたご家族へ本人が就寝された後に電話連絡するなどして関係作りに努めている。           |      |                   |
| 17                           |    | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている   | 業務の中で入居者様にお手伝いして頂けることは無理の無い程度にお願いし共に行っている。   |      |                   |
| 18                           |    | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている                          | 本人の希望に沿って電話や手紙などでの交流で家族との関係を大切にしている。また、本人の近況報告を送っている。                                  |      |                   |

| 自己                                 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|------------------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
|                                    |     |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19                                 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                    | 毎月始めに近況報告で家族の方に入居者様の様子をお知らせしたり、新しく入居された入居者様のご家族へ本人が就寝された後に電話連絡するなどして関係作りに努めている。 | 自宅に行きたい、美容室に行きたい等の希望が出たときは、家族の協力により、支援している。元々ひとり暮らしの方は、近所の方が遊びに来てくれたりと、馴染みの関係が継続できるように支援している。               |                   |
| 20                                 |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                | 毎週木曜日にはユニット間で一緒に行事を行い、皆様に楽しんで貰えるようにスタッフが計画し行っている。                               |   |                   |
| 21                                 |     | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後も本人やご家族とお会いする機会があり、築いた関係性を大切にしている。他介護保険施設に入居された方にもお祭りの案内を行うなどしている。           |   |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |     |   |   |   |                   |
| 22                                 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                        | 本人から希望や要望があった場合は、耳を傾け、困難な場合でも月1回の職員会議や朝、昼、夕の申し送り職員同士確認している。                     | 帰宅願望や暖房を消さないで欲しい等、困難な要望は、話を聞いて安心できる言葉を返し、支援している。意思表示が難しい方には日々の表情等から感じ取る等、その人その人に合った対応を行い、申し送りで職員間にて統一させている。 |                   |
| 23                                 |     | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている               | 本人の残存機能を活用しながら手芸工作等を行っている。また、食器拭きやモップがけ等負担にならない程度に手伝っていただいている。                  |   |                   |
| 24                                 |     | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている                                  | 残存機能、健康状態など常に注意をし、本人の負担にならないよう支援している。   |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |  |
|----|------|---|--|---|--|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 25 | (10) | <p>○チームでつくる介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>                        | <p>毎月職員会議を開き入居者様について意見交換できるようにしている。朝・夕1日を通して申し送りでもチームワークをとっている。</p>                                      | <p>基本的に半年に1回、状態が変わった時にはその都度行っている。担当職員と計画作成者がモニタリングを行い話し合い、家族や本人の意見を聞き、職員全員で話し合ったうえで、計画作成者が完成させ、署名・捺印をもらっている。</p>  | <p>入所してから時間も経過し、職員と家族の信頼関係が出来ているため「おまかせします」という意向が多くなっている。日々の気付きやアイデアを話し、それについての意見を求める等、家族の意向を聞き出す努力に期待したい。</p> |
| 26 |      | <p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>  | <p>朝・夕の申し送りや介護記録、業務日誌、受診記録を確認し日々のケアや今後の支援に活かすよう努めている。</p>  |   |  |
| 27 |      | <p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>   | <p>年に2回避難訓練では地域の消防署にも協力を頂いている。2ヶ月に1回の運営推進会議には地域の代表の方に参加して頂いている。地域のボランティアの慰問もあり、楽しんで安全に生活出来るよう工夫している。</p> |   |  |
| 28 | (11) | <p>○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> | <p>かかりつけ医、歯科医、薬局との関係は良好であり入居者様、御家族に説明、納得のうえ受診し適切な医療を受けられるよう支援している。</p>                                   | <p>基本的に職員が対応し、入所前に利用していた病院を受診している。また、歯科等必要になった場合は家族に連絡し、往診の希望があれば対応している。通院が難しくなってきた際も、往診診療が受けられるよう、支援している。薬局もそれぞれ利用しているところを継続しているが、どこの薬局もわからない事等は連絡し助言してもらっている。</p> |  |
| 29 |      | <p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>                             | <p>協力医療機関の看護師と良好な関係を築いており気軽に相談出来ている。また、毎週火曜日には訪問看護も行っている。</p>  |   |  |

| 自己                               | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
|                                  |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30                               |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入院した際には、病院関係者、家族との連絡を密にし、情報の交換、相談に応じ、治療できるように努めている。   |  |                   |
| 31                               | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 終末期介護のありかたについて本人・家族・身元引受人・かかりつけ医に説明や同意書を頂いて理解してもらっている。かかりつけ医とスタッフ間でカンファレンスを行い、ケアに対しての情報を共有している。 | 職員より、受診のタイミング等の相談が出来れば助かるとの希望があった。職員の不安を取り除き、本人・家族が安心して終末期を迎えられるよう、今年度より訪問看護を依頼している。担当職員が状況を記入し、訪問看護からコメントをもらったり、訪問時以外も電話やFAXで相談している。                  |                   |
| 32                               |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 緊急対応時のマニュアルや緊急連絡網を作成し、目に付く所に貼付している。   |  |                   |
| 33                               | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 日中、夜間帯を想定した避難訓練を行い、職員全体が動くべき手順を確認した。  | 地震想定、火災想定(火の元の場所を何ヶ所か変更しながら)、夜間想定等、色々な状況設定により避難訓練を行い、地域の方も参加してくれている。非常食を食べてみたり、自家発電機の使い方を確認したり等、工夫している。運営推進会議の中、人工呼吸の練習を行ったり、地域の消防団の集まりに行つて協力依頼も行っている。 |                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |   |   |  |                   |
| 34                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている  | 居室を訪ねる際にはノックをし声掛けしてから入室するようにしている。   | 送り時等、プライドを傷つけないよう、利用者の名前を出さないようにしている。排泄チェック表も、上から紙を張り、見えないように配慮している。トイレ介助を拒否する利用者は、音や臭いで確認している。  |                   |
| 35                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている  | 入居者様との会話を大切にし、自分の思いや希望を表現出来るように努めている。なるべく自己決定が出来るような質問の仕方をするなど工夫している。                           |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|--|--|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者様個人のペースを大事にし、役割を持つことにより自信を持って頂けるような支援を行っている。また、日記を記入して頂き、そこから希望、考えを把握するように努めている。                      |   |                   |
| 37 |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 出張理容店に來設していただいております、本人と家族の希望で行う事ができ、本人の望む店にも家族の協力を得ながら希望に沿うように努めている。                                     |   |                   |
| 38 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 地域の方々や家族からのいただき物を提供し、季節感を大切にしている。また、誕生日ではあらかじめ本人が食べたい物を聞き提供している。また、出来る方にはお膳を下げて頂くように支援している。              | 敷地内にある畑に収穫に行ったり、山菜の下ごしらえを手伝ってもらったり、利用者と職員が出来る範囲で一緒に準備を行っている。また、100歳のお祝いの時は、すし屋に来てもらい、目の前で握ってもらう等、楽しむ工夫を行っている。 |                   |
| 39 |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている    | 入居者様一人ひとりの食べる量や栄養バランスを考慮し1日1500キロカロリーを目標に献立を作成している。個人別に水分摂取量も記録し把握している。また入居者様の状態に応じてお粥や刻み食にするなどの支援をしている。 |   |                   |
| 40 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 毎食後一人一人の口腔状態や力に応じ、うがいや歯磨きをして頂いている。また夜間は入れ歯をお預かりし、洗浄剤につけ、朝洗った後につけていただいている。                                |   |                   |
| 41 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている   | 一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表にして確認し出来るだけトイレで排泄できるよう声掛けをし、支援している。  | 現在、日中もおむつを使用している利用者が2名いる。おむつ外しは無いが、排泄チェック表を活用し、失禁が減った事例が多い。夜間、部屋にポータブルトイレを希望している利用者には対応している。                  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 毎日ラジオ体操を行い、食事には野菜を取り入れている。水分補給にも気をつけている。便秘の時は、主治医より下剤を処方してもらい、排便の有無をチェックした調整も行っている。 |   |                   |
| 43 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                   | 入居者の体調、要望に合わせて週3回のペースで時間を決めずに入浴を楽しめるように支援している。                                      | 入浴拒否のある利用者に対し、入浴剤を入れてみたり、花を飾ってみたり、おやつを準備したりして工夫している。籠を持って温泉に行っていたと聞くと籠を準備した。それでも拒否が有り入浴できない際は、一人の利用者に対し職員3人で温泉行きを計画し、温泉の従業員にも事前に話し協力を仰ぐ等、利用者個々に沿った支援を行っている。 |                   |
| 44 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 一人ひとりの生活習慣を把握し、入居者様の意思を確認し、休息していただいている。また、居室に温度計や加湿器を置き、気持ちよく眠れるよう支援している。           |   |                   |
| 45 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている                               | 受診記録を共有している。薬ケースに薬情報を添付したり、薬の変更時には申し送りや張り紙等で2重3重の確認を行っている。                          |   |                   |
| 46 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | おしぼりたたみや縫い物等個人個人の生活歴を見てなるべく役割を持てるよう支援している。  |   |                   |
| 47 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 年間行事において花見や紅葉ドライブ、お祭、運動会、お買い物ツアー、鍋っこ会等を開催しており、普段行けない場所へ行く事で気分転換になるよう支援している。         | 自宅へ帰ったり、美容室に行ったり、家族の協力を得ながら、個々の外出対応を支援している。また、みんなで行く外出も、行きたくない人は行かないで行事にも参加したくない人は参加せず、留守番をしたり個々に対応している。  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している   | 買い物ツアー等を行い、本人に財布を持って頂きレジで直接お金を払っていただくよう支援している。                                    |  |                   |
| 49 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている  | 入居者様から家族などに電話や手紙の希望があった時は要望に沿って連絡をとっていただけるよう支援している。                               |  |                   |
| 50 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 昭和時代の音楽を流したり、壁には季節に合わせた手作りの壁画を貼ったりして安心して楽しく過ごせるようにしている。また、地域の方が持って来てくださる絵も展示している。 | ホールで寝ると安心する利用者に対し、ホールにベッドを準備し心地よく過ごせるよう配慮している。個々に合った工夫をしているが、乱雑にならないように気を付けている。また、利用者と職員共同で作った作品を掲示し、季節感のある空間作りを行っている。                                 |                   |
| 51 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている   | なるべく入居者様同士の人間関係を考慮して座る場所の配置を決めている。  |  |                   |
| 52 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている   | ご自宅から入居者様が使い慣れた布団やカーペットやクッションを持って来ていただき、安心してリラックス出来るように配慮している。                    | ベットか布団かは利用者の好みで選択している。新聞に載った孫の写真をラミネートして居室に飾る方、物を作るのが好きな方には畳にカーペットを敷き、テーブルを準備している。また、部屋で放尿してしまう利用者には清潔に過ごせるよう、物を最小限にしたりして対応しており、利用者一人ひとりに合わせた居室になっている。 |                   |
| 53 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している  | 手すりを使用して頂いたり、通路に物を置かないようにしている。  |  |                   |